

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770109128		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから百舌鳥西之町		
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥西之町		
自己評価作成日	平成27年5月13日	評価結果市町村受理日	平成27年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年6月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の日常生活が安全で且つ、安心して過ごせるよう、個々のニーズ、状態を把握する事に努めております。その上で、一番大事にしていることは、入居者様に対する敬う気持ちや、職員の倫理感の向上です。また、当然ながら介護度も変化しています、毎日のご様子をしっかりと観察しつつも何か違う・という変化をより早くキャッチできるように努力しております。入居者様に対する言葉づかい、態度に注意を図り、質の高いグループホームを目指して我々が常に笑顔でやさしい心づかいで関わっていきけるよう日々頑張っております。家族様に対してもいつ来所して頂いても安心していただけるように、まず気持ちの良い挨拶から信頼関係を築くように心がけております。日々症状が重くなりADLも低下されますが、スタッフのチームワークで乗り切れる仲間意識を大切にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

吹田市に本部を置く(株)カームネスライフの経営になるもので、当法人はこれから迎える超高齢化社会にとって増加するであろう認知症患者の介護については「住み慣れた地域で、笑顔を交わし合える介護」、即ち地域密着型の介護施設の充実こそ必要との結論の基に、現在大阪府下で20ヶ所以上のグループホーム他を展開されている。本部で週1回管理者会議を開き、多忙の中陣頭指揮をとられる現社長の熱心さに管理者始め職員が厚い信頼感を寄せている。職員の離職率の低さにもそれが表われている。土地の地主さん(オーナー)も福祉に対して理解があり、運営推進会議にも出席され、ホームのすぐ横に畑を残し職員や利用者が野菜を育て、それが食卓に上がるのも楽しみの一つである。職員の自主性が重んじられ、職員も介護は責任はあるが楽しい仕事であると言い切っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差し、地域と共に互いに支える生活の提供」という理念のもと、職員に意識づけを行っています。	当ホーム独自の理念として、地域密着性を強く打ち出し「地域に根差し、地域と共に互いに支える生活の提供」と定め、地域住民や利用者家族にも理解を求めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所との交流を図っています、またご近所の方を施設のレクレーションに招待して交流をはかっています	地域の夏祭りでもある「布団太鼓」を見物したり、当ホームからも敬老会を主催し、家族や地域住民にも案内している。近くの中学生の職場体験を受け入れたり、地域ボランティアも活用している。在宅認知症高齢者のケアの相談にのることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員様などにオリジナルパンフレットをお渡しして認知症の理解や支援の方法をお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意向を十分に取り入れて実践していると思っています。リハビリマッサージの相談員、歯科医、施設看護師など出来る限り参加してもらっている	毎年奇数月に開催している。3月は試みに家族のために日曜日に開催している。家族の参加は増えたが、行政からの参加が無かった。家族と行政が同時に参加出来る方法を模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要事項の連絡、報告にとどまっておりの後の課題、関係を築くよう行っている。	市介護保険課や生活援護課とはよく連携がとれており、色々な相談事によって貰っている。毎月開かれる北区グループホーム連絡会にも出席して意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や日常にて事例を検討しながら取り組んでいる。	何が身体拘束に当たるか、身体拘束の弊害等については、職員研修で事例検討しながら研修している。過去には数例あったが、現在は職員がよく理解しており、身体拘束例は無い。玄関については安全上施錠しているが見守りケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践できている。一番の理念として高い倫理観の元、職員も日々努力し行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状職員はケースがないために学ぶ機会が持てない事情もあり、今後事例など通して理解し学ぶ機会を得るように努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実践できている。日々家族の意向や意見を反映させ運営に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、ご家族の意見を聞き検討、勘案し反映できるように努めている。	利用者からは、入浴時やモニタリング時に聞き出す努力をしている。家族からは、来訪時や家族会および運営推進会議で意見や提案をお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りで常に情報の共有に努めています 更に毎月の職員会議では職員の意見や提案を話し合う機会を持っています	毎月の職員会議や申し送り時に聞いている。管理者による人事考課のための個別面談が年2回あり、その際に意見や提案を聞く機会を設けている。介護福祉士の資格取得を望む職員に対しては、シフト面で支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課面談時に個人的な意見、要望などを代表者に伝える機会を持っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別指導、法人内外の研修機会を設け質の向上に努めている。不安材料はなるべく早く取り除けるように面談を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修にて交流はある、また堺市グループホーム会議にて管理者の交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴にて本人の意向、要望、現状、生活歴の把握、アセスメントを行い、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族との面談、職員からの情報、モニタリング、アセスメントを踏まえた上での支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談、職員からの情報、モニタリング、アセスメントを踏まえた上での支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事、買い物など本人の能力に応じて、職員と共に行っている。「大きな家」で共に生活を過ごしているという観点の元で信頼関係を築くように日々努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議、面会訪問、毎月の経過報告、電話にて意見を伺うなど、家族とのコミュニケーションを図るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みという事を忘れてしまわれている現状があるので難しい面もあるが、生活習慣は大切にできるように支援している(食生活など)	家族の了解をとっておいて、馴染みの友人や親戚の方との面会は支援している。又、ホームとして手紙や賀状を出す支援もしている。馴染みの場所としては、スーパーや百貨店、チンチン電車等があり、個別に遠出の外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の家事やレクリエーション、行事の準備、買い物、散歩など利用者同志、日々関わりができるように配慮、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、退去後家族からの相談がある。常に支援できる体制を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、傾聴、職員間での日常生活の把握、情報の共有、モニタリングを実践している。継続して本人を尊重、意向に沿った生活が継続できるように、日々職員と共に努めている。	まず利用者の生活歴等を把握するため、基本情報やコンパクトアセスメント、症状の現状等をアセスメントシートに纏め、職員全員で共有している。入居後も本人の変化等細かく観察し、担当者報告表や個別記録に記載し、ケアプランの変更等の参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々、生活状況のモニタリングを実施し、本人が安心、満足できる日常生活が送れるように職員での周知、情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、生活状況のモニタリングを実施し、本人が安心、満足できる日常生活が送れるように職員での周知、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・ケアプランを作る上で入居者様の担当を決めて中心になりカンファレンスを行う、より現状に合った介護計画を作るように努めている	家族の要望やかかりつけ医の意見等を参考にし、ケアマネージャーを中心に担当職員も参加して担当者会議にて本人本位のケアプランを立てている。モニタリングは月1回、ケアプランの変更や追加の検討は原則6ヶ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録のみでなく、職員間で周知できるように別紙記録、申し送り記録にて情報共有し、計画の見直しに活かし、反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じた生活を提供するために職員間でケアを試行錯誤しながら、様々なサービス支援を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	課題として地域資源の活用にて楽しみのある生活が送れるように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の状態把握を常に行いながら、医療機関との連携を図っている。身体状態に応じた医療機関も提案している。	従来のかかりつけ専門医の受診は家族が同行するが不可能な場合は、職員が支援し結果を家族に報告している。健康管理のための提携医療機関の内科、歯科の訪問診療は全員週1回受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状態など異常の早期発見に努めるため、看護、介護職員間で密な連携を図り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時ともに本人が安心して治療、復帰できるように医療機関の職員、医師などと情報交換にて本人が安心して生活できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が可能な限りホームで生活できるように、職員、家族にて協同、チーム支援に取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合における対応の事業所指針を説明し、同意書を得ている。重度化・終末期の対応は、家族、医師と職員とで話し合い、方針を決めてチーム支援として取り組んでいる。今まで実質2件の看取り実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要事項にとどまっておき今後は定期的な訓練を実施していくことが課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練、避難訓練は行っている。地域との連携については、運営推進会議にオーナー様に建物自身の安全性をご説明いただいています。	消防署立会いの避難訓練と自主避難訓練を行っている。スプリンクラー、自動火災通報装置、消火器を設置し、備蓄の備えもある。ローテーションで訓練に参加できない職員がいるし、近隣住民の協力も望ましい。	災害発生緊急時に職員全員が具体的な即応が取れるように、法定訓練に加えて、ミニ繰り返し訓練と避難救助した利用者の見守りに限定した近隣住民の協力体制の構築を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念として一番大切な本人の尊厳を心がけて対応している。	利用者の人格、誇りやプライバシーを損ねるケースに当る事例を職員皆で検討し、正しく理解して対応している。職員間でも日々確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が表現しやすく、自己決定ができるような雰囲気作りに配慮し、心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のニーズに応じて、本人が過ごしやすい生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択や身だしなみは職員と共に行っている。気分転換にお化粧やマニキュアなど楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、準備、片付けなど職員と共に実施している。	配食業者からの食材を皆の好みの少し濃い目の味付けで、喜んで完食している。週2回利用者のリクエストで好みのメニューと一緒に作って楽しんでいる。ホーム横の畑で皆で育てた野菜を添えて季節を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、栄養状態の把握、疾患により嚥下機能低下の利用者に対しては、ミキサー食やとろみなど本人の状態に応じて、主治医と相談しながら食事形態など考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員と共に実施している。口腔内の清潔のみでなく、嚥下機能向上のためにも、毎食後実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最低限、おむつを使用しないように個々の状態に応じて排泄の自立に努めている。	気持ち良く過ごすために、オムツはつけないように個々の排泄パターンに合わせてトイレ誘導して排泄の自立に向けた支援をしている。病院退院後の排泄自立に成功した事例は多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日たりハビリ体操や散歩、腹厚や腸蠕動を促す日常生活動作など考慮し、共に実践している。便秘体質の方には乳製品を摂取していただくなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている。	個々の希望に合わせて、週3回の入浴を楽しめるように努めている。5月の菖蒲湯や冬至のゆず湯で季節感を味わっている。入浴を嫌がる人には、時間や人を替えて声かけも工夫して入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が、使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人一人の生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人のその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	天気の良い日は極力戸外に行き、外気を吸い日光浴をして五感を刺激するように支援している。近隣の古墳や神社、コンビニ、スーパーによく出掛けている。又リクエストの多い大衆劇場に遠出する支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金をもつことの大切さを理解しており、一人一人の希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室・トイレなど)が利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音・光・色・広さ・温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、いこち良く過ごせるような工夫をしている。	共用空間のリビング、浴室、トイレ、廊下は明るく広くゆったりしている。採光も良く空調管理も行き届いている。リビングの壁面には、ホームで力を注いでいる利用者の習字や大きなカレンダーの力作が飾られて、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは、泊まりの部屋は本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人がいこち良く過ごせるような工夫をしている。	各居室は本人と家族の希望で使い慣れ親しんだ家具や仏壇、テレビ、草花の鉢、写真等が持ち込まれ、従来の生活の継続性が保たれて本人が居心地良く暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人一人の「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		